

2022年度(令和4年度) 自己評価・学校関係者評価報告書

日本バプテスト春日原キリスト教会附属 恵星幼稚園

【自己評価】

◇自己評価検討会議日：2022年3月9日(木)

I. 本園の教育目標(目指す子ども像)

- ・ 神さまと人に愛される子ども
- ・ いきいきと生活する子ども
- ・ 仲間と育ちあう子ども

II. 今年度重点的に取り組む目標・計画

- 発達と生活の連続性を大切にし、1年を、子どもの実際の姿に照らしたゆるやかな区分で保育する。
- カリキュラムは学年別で期ごとにですが、将来的に発達の区分に合わせて作成できるように考えていく。
- 教育要領に照らしつつ、あそびを中心とした教育活動が子どもの学びとなっているかに着目して、保育の振り返りをする。

III. 評価項目の達成及び取り組み状況 (評価 A:よくできている, B:だいたいできている, C:あまりできていない, D:できていない)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	園児一人ひとりの発達に添った保育の計画及び実施を行う	A	<ul style="list-style-type: none">・カリキュラムを毎月ではなく、必要に応じて期ごとに作成することによって、一人ひとりの発達やクラスのように合わせて保育計画を実施できた。・各学年の目標達成状況や振り返りを担任が中心に行ったので、今後は他の教職員とも計画や振り返りを共有する。・年長児全員が地域の小学校との交流を行い、進学に向けて準備することができた。
2	新型コロナウイルス対策で制限された環境においても、園の教育目標を失わず、豊かな園生活を保障する。	A	<ul style="list-style-type: none">・園庭のボルダリングの落下によるケガ防止のマットを設置した。・感染状況を見極めつつ、予定していた行事や保育を割愛することなく実施できた。・クラスでの遊びの中から、興味・関心が高かったことを継続して深め、年間保育目標を視野に入れた保育につなげることができた。(お買い物ごっこ、自由な製作、縄跳びやフラフープ、まりつきなどの運動あそびなど)
3	保護者が安心して園に送り出せるよう配慮し、感染対策や保育内容を共有できるよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none">・昨年に引き続きクリスマス会でのzoom配信を行い、離れた地域の家族にも様子を伝えることができた。・感染対策の一環であるマスク着用を園医の見解を参考に、選択の幅を維持した上で、園児は外しても良い期間を増やし、のびのびと生活できるよう配慮した。・毎週発行しているクラスだよりや、絵本ノート、保護者会、保護者との聖書の学びの時間に今の子どもの様子を伝えたり、家庭と園で子どものために一緒に取り組んでいきたいことなどを具体的に伝えることができた。・子どもの園生活に不安を抱えている保護者に個別に声掛けを行い、懇談の時間を取って丁寧に対応してきたが、毎年アンケートの結果ではもっと相談に乗って欲しいと感じられる保護者もおられるので、努力の継続が必要。

IV. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・2019年度末からのコロナ対策の中で初めて職員も同時感染があり休園を余儀なくされたが、クリスマス礼拝祝会を延期することでほとんどの園児が出席して実施したことなど、園の行事などに対する保護者の理解と協力に支えられている。・学年の発達段階に応じたためあてを期ごとに確認しながら保育計画を立てることができた。

(評価 A:よくできている, B:だいたいできている, C:あまりできていない, D:できていない)

V. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	安全管理・環境	<ul style="list-style-type: none"> 『危機管理マニュアル』を全職員に配布して読み合わせる。 職員会議議題に「ヒヤリハット報告とその対策」に加えて、毎月行っている施設設備遊具等の安全点検結果をその月の担当者が報告する。
2	保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> 園が行っている生活指導(うがい・手洗い・排泄・食事・着脱)や成長に必要なことを保護者にも共有し、定着のために家庭でも取り組める具体的な方法を伝えたり話し合ったりする。その際、保護者が大きな負担感なくできるよう個別に支援する。
3	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 卒園児が進学した小学校の公開授業(幼児教育者対象)に参加して切れ目のない教育支援へと繋げる。 年長児が進学する全ての小学校への引継ぎや、春日原小学校教諭が来園して行う保育見学や引継ぎを継続して行う。 ドライブスルー時などにお会いする地域の方々に挨拶を継続し、機会があれば短く園のことを伝える工夫をする。

【学校関係者評価】

◇学校関係者評価委員会開催日：2022年3月10日(木)

◎学校関係者評価委員会の評価

評価	所 感
A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の総合「B」は厳しい印象を受ける。十分になされているので「A」で良いのではないかと。 カリキュラム(保育目標)の作成を異年齢混合から学年ごとのものに変更して行っていることで、保育内容が充実してきたことを園児の様子から感じる。 今年度の行事や保育内容が、感染症対策の制限がある中でも、通常に近い形に戻して園児の様々な体験を保障できていた。コロナ下での努力を評価したい。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(文科省)」を参考に、園がどのように保育計画を立て、学年ごとのカリキュラムを作成して具体化しているのかを、もっと保護者に伝えても良いと思う。 この3年で保護者同士(特に車で送迎の保護者)のコミュニケーションが減少しているので、交流の場(クラス会、茶話会等)を増やすことも必要と感じる。以前の方法を経験していない世代になっているため、園が主体にならなくとも、後方支援があれば幹事会も動きやすいのではないかと。(コロナ前の親子遠足で昼食をペアと一緒にすることが園での最初のコミュニケーションになっていたため、復活すれば年度始めに知り合えて良いと思われる。) 保護者は園の方針や環境を理解した上で入園しているので、これまで通りのびのびと泥遊びなどの全身を使った体験を継続して行ってほしい。 保護者アンケートや学校関係者評価などが園のホームページにアップされていることを認識していない保護者がいるので、もっとアピールしてより深く園を理解してもらおう機会にすれば良いのではないかと。(園日よりやメールでお知らせしているが読まない方もいるので…)

(評価 A:よくできている、B:だいたいできている、C:あまりできていない、D:できていない)